

## **「等々力陸上競技場の全面改修を推進する会」の改善要望(概要)**

主に、2008年11月時点でとりまとめ、行政等をお願いした事項をまとめてあります。

2010年6月27日

「等々力陸上競技場の全面改修を推進する会」主催

「等々力改修の進捗説明会」資料



## (1) 屋根のないメインスタンド

一般的にメインスタンドは競技場内で最も観戦環境に優れ、観戦者も好んで座るものであるが、等々力陸上競技場では屋根がないため、観戦者は常に雨の心配をしなければならない。ご年配の方、子供連れの方は特に大変である。



現在のメインスタンド



バックスタンド、サイドスタンド(ゴール裏)には、2階席しか覆っていないとはいえ屋根がある

---

## (2) 収容可能人数

競技場は公称 25,000 人収容となっているが、川崎市によると、メインスタンド両端のスペースやサイドスタンド(ゴール裏)とバックスタンドの最上段のスペースは、観客収容可能なスペースとして考えられているという。実際の席数と言えるのは、全座席と、サイドスタンド(ゴール裏)1階の立見席であり、その合計は 21,500 席程しかない。さらには、それらの席の中でも、柱の陰等の見切り席が非常に多くある。サッカー・川崎フロンター

レの試合のみならず、陸上競技でも 20,000 人以上の来場者があることから、快適に観戦できる席数を増やす必要がある。

【川崎フロンターレ ホームゲームにおける入場者数の推移】年々 2 万人を超える試合が増加している。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
06 年	17,444	14,191	10,316	11,149	13,300	9,430	23,005	20,425	20,144	11,306
07 年	20,295	18,621	21,208	21,804	14,983	14,033	15,244	16,614	17,299	18,095
08 年	21,020	17,658	14,753	14,426	20,280	20,335	14,235	17,993	14,131	21,952

	11	12	13	14	15	16	17	平均	2 万超
06 年	15,482	12,029	10,282	14,383	10,505	12,871	17,518	15,433	3 回
07 年	19,789	13,185	15,535	13,438	14,440	23,355	16,813	17,338	4 回
08 年	14,715	10,884	20,729	20,455	16,145	21,714	17,172	17,589	7 回

2008 年 11 月 27 日時点までの記録

( 補足 ) 2010 年は 5 月までの 5 試合中、2 試合で 20,000 人超。5 試合の平均は 19,825 人



メインスタンド端のスペースで観戦する人々の様子

### ( 3 ) 来場者の通行導線

コンコース全体の幅

10,000 人程度の来場者でも大混雑して危険なほど、全体的にコンコースの幅が狭い。



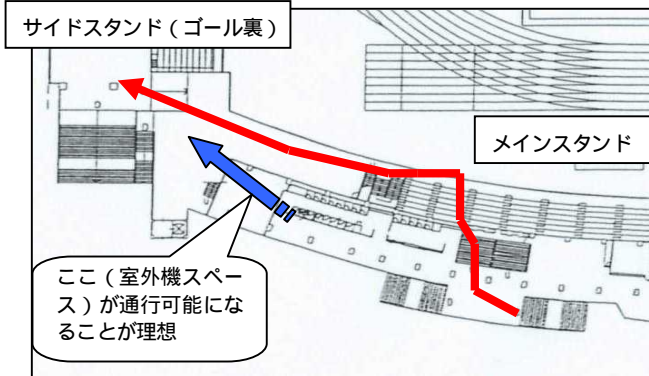
バックスタンドコンコース



北側サイドスタンド ( ゴール裏 ) コンコース

### メインスタンドコンコースからサイドスタンド（ゴール裏）への移動の困難性

メインスタンドからサイドスタンド（ゴール裏）へ移動するには、スタンド内を通らなければならない造りになっているため、非常に狭いことに加えて、通路になる付近の座席についている方々がぶつかられる、視界を妨げられるなどの被害を受けている。



[図] メインスタンド北側端

→ が現在の通行導線

メインスタンドコンコースから階段とスタンド内を通過

→ が理想の通行導線

空調室外機スペースを通過できるようになれば大きく改善される



メインスタンドコンコースから階段（写真左端）を上ってスタンドを通り、サイドスタンド（ゴール裏）側（写真右方向）へ向かう来場者

（補足） 2008年11月23日より川崎中部公園事務所のご尽力によって、川崎フロンターレの試合開催時には、空調室外機スペースに仮設通路を設置していただいております。

### コンコース下へ降りる各階段

コンコースの幅を大きく狭めてしまっている。また、人波に押された場合、転落の危険性もある。



地下への階段



地下への階段の造り（転落の可能性あり）

## コンコースの消火栓設置台

消火設備が入っていない台がほとんど。機能していないのにコンコースを狭めていて邪魔。



何も入っていない台は、過去に灰皿置き場として利用されていたというが、分煙化の進む現在ではここに灰皿を置くことは不可能

---

## (4) 競技場周囲の来場者通行・待機用スペース

競技場の周囲には、入場待ちのために開門前から非常に多くの人が集まるが、その人々が通行または待機するためのスペースが足りない。入場待機列は、時には公園をはみ出して多摩川の土手付近まで延びてしまう（川崎フロンターレの2008シーズン最大の入場待ち人数：5ゲート＝約4,000人、7ゲート＝約3,500人、10ゲート＝約400人、13ゲート＝約4,500人）。競技場の周囲全方向でスペースが不足している。

2008シーズンの川崎フロンターレ試合時、特にスペースが足りず、混乱が起こりやすい箇所は以下のとおり。

正面玄関前から道路を挟みプール前の広場までの一帯（大多数の来場者が通行）



プール前広場から正面玄関を望む。広場にはある程度のスペースがあるが、競技場前に道路と日本庭園があり、入場ゲートの前にはスペースがない



広場から道路を渡る人の波

メインスタンド5ゲート外側（日本庭園付近）



5ゲート前で入場待ちする人々。競技場周回スペースが狭いため、人が溢れてしまう



5ゲート前から溢れた人々は競技場正面玄関前の道路へ。多いときには釣池前を通り越し、多摩川沿線道路付近まで伸びる

北側サイドスタンド（ゴール裏）外側（7ゲートからバックスタンド側までの池付近）



競技場周回スペースがすぐに人で埋まってしまふ。通行導線を確保することが困難





### バックスタンド 10 ゲート外側（東駐車場付近）



10 ゲートは間口が最も広いゲートにもかかわらず、場外にほとんどスペースがないため人が並べない。川崎フロンターレの試合では入場できる券種を限定することで入場者を減らしているが、それでも駐車場（写真右端）に人がはみ出さないようにするのが困難

### 南側サイドスタンド（ゴール裏）外側（13 ゲートからバックスタンド側までの広場付近）



13 ゲートからの入場待ち列はバックスタンド側まで伸び、横の桜の園も埋め尽くす。時にはそこでも収まりきれず、競技場前の道路を越えてテニス場と中部公園事務所の間に伸び、公文書館付近まで続くことも

## (5) 北側サイドスタンド(ゴール裏 ホームサポーター側)の観戦環境向上

Jリーグ開催時、北側はホーム(川崎フロンターレ)側のファンが入るエリアになるが、現状では快適に観戦できる環境とは言えない。主な問題は以下。

スタンドの傾斜が緩く観戦しづらい(これは南側も同様)



スタンドの様子



スタンドからの眺め(平面的になる)

オーロラビジョンが北側のみにしかないため見られない



北側に設置されたオーロラビジョン

## (6) 競技場の柵、手摺、床等の耐久性への不安

床はがれたところに来場者が躓き転倒する、古くなっている柵に大人数が寄りかかると倒壊しかねない等の危険性がある。



[メインスタンド]

細い柵、床の老朽化



[メインスタンド]

床のひび割れ



[メインスタンド]

床が浮き上がり下に水が溜まっている



[北側サイドスタンド(ゴール裏)]

床はがれている



[北側サイドスタンド(ゴール裏)]

壁が崩れ落ち鉄筋がむき出し。落ちた破片を子供が拾い、投げて遊ぶことも



[バックスタンド]

スタンドとフィールドを隔てる壁が割れている(ひびではなく完全に割れている)  
(現在は修復されているが、このような壊れ方をすること自体、耐久性が不安)

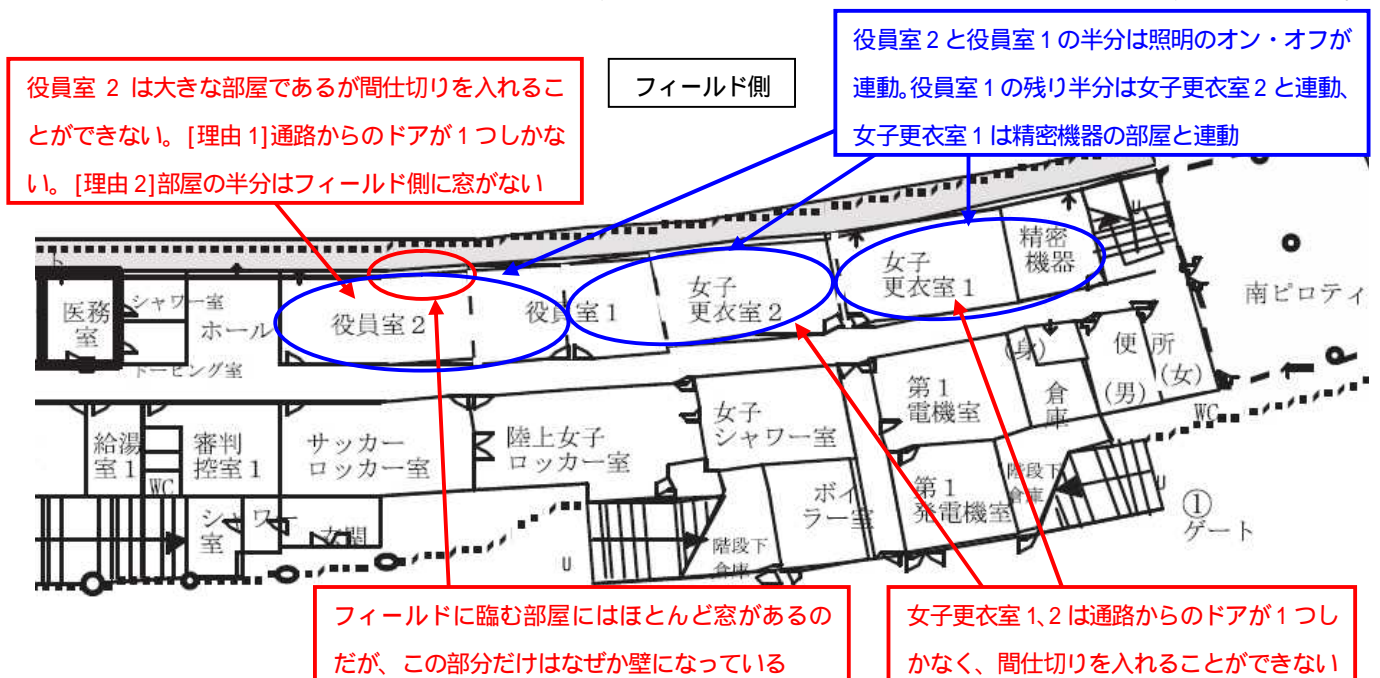
その他、多数

## (7) 部屋、倉庫の不足

競技場の部屋数が不足しているため、特別な御来賓や各種関係者のための控室、作業室、観戦用スペースが用意できない(その影響で、居場所がない関係者が屋内の廊下やロビー等に留まってしまいうため、大会運営業務にも支障をきたしている)

部屋数が足りないことに加え、使い勝手の悪い部屋も多い。使用形態に合わせて間仕切りを入れることのできる大きな部屋が理想であり、メインスタンド1階にはそのような造りが多少施されているものの、間仕切りや窓、ドア等の位置や数が中途半端であり、広いながらも間仕切りで区画分けできない場所が多い。ある区画では通路から出入りするドアがなくなる、またある区画では照明のオン・オフが別の部屋と連動しているので多くの照明を無駄に点けておかなければならなかったり、間違えて別の部屋の照明も一緒に消してしまったりする、フィールドを見渡せる窓がなくなる、等の問題がある。

また、倉庫の数も少なく、備品はピロティや通路にも置かれている。場外でも状況は同じで、大規模イベント開催時には絶対に必要な通行導線コントロール柵、テントなど必要設営物を収納する倉庫が少なく、入りきれない。



メインスタンド1階南側の諸室図

## (8) ロッカールームのトイレ数

ロッカールームにはトイレが1器しかなく、競技者が順番待ちをしなければならない。サッカーなどの競技の場合、試合開始直前やハーフタイムにトイレに行く選手の数が多く、トイレの数が足りない。

(補足) 2010年より、サッカーロッカー室側にトイレが増設されました。

## (9) 競技場の部屋毎に個別空調がない

メインスタンドの空調は北側で1基、南側で1基、中央で1基の計3基にまとめられているため、多くの部屋を一定の強度でしか運転できない。また、一旦冷房(または暖房)に設定するとその日は暖房(または冷房)に切り替えられない。競技者が入る部屋と運営スタッフが入る部屋とでは設定を変えたい場合もあるが、それが不可能になっている。

## (10) 雨漏り、水溜り

競技場全体に多数あり。場内だけでなく、競技場に沿って入場待機している来場者の上にも水が垂れてくる。来場者から苦情が殺到している。また、メインスタンド最上階の諸室は、屋根の老朽化が進んでいるため雨漏りし、天井から大量の水が降ってきたこともある。



その他、多数

## (11) トイレの数

競技場の収容可能人数に対してトイレの数が少なく、トイレに長蛇の列ができてしまう。観客席エリアだけでなく、屋内の競技運営関係者用のトイレも少ない。

## (12) 音響設備

現在の競技場音響設備は、災害時のアナウンス程度を想定して設置されたものだということで、大観衆を迎える大規模イベントでは音量、音域ともに不足。また、アマチュアレベルの小規模な大会でも、音が出なくなる等の問題が時折発生している。

さらに、音響設備の老朽化のため常時ノイズがあり、競技運営に支障をきたしている。

## (13) 身体障害者対応

メインスタンドの身体障害者席

メインスタンド中央最前列の身体障害者用観戦スペースは、屋根がなく、通路が狭いため移動も困難。さらには、車イスに座った状態では柵があってフィールドが見づらい。



(左上)メインスタンドの身体障害者席。屋根がないため雨天時は濡れてしまう

(上)通路には階段が張り出し、排水溝もあるため、車イス利用者にとっては非常に移動しづらい。他の通行人とすれ違うことが難しい

(左)車イスに座った状態からフィールドを眺めるとこのように見える

## サイドスタンド（ゴール裏）、バックスタンド

雨天時等には、車イス利用者はメインスタンドを避けてサイドスタンド(ゴール裏)やバックスタンドに移動、観戦することが多いが、それらのエリアではコンコース上から観戦するしかない。しかしコンコースからでは他の来場者が視界を妨げ、競技を十分には見られない状態になりやすい。

フィールドが眺めやすいバックスタンド上階に特別なスペースを設けてエレベーターで上げられるようにし、車イス利用者でも競技を存分に楽しめるようになればいいが、現状ではそのような設備がないため、上階で観戦したい車イス利用者は、車イスを階段下に止め、付き添いの方等に抱きかかえてもらって階段を上り、一般席に座っているのが現状。

## その他

車イス利用者等は乗用車で来場し、競技場の側面に駐車できるのが理想だが、現在の競技場の周りには余裕がなく駐車スペースがほとんどとれない(川崎フロンターレの試合開催時には5台分を確保するのが精一杯)。競技場から離れた所に駐車場を設定すると、競技場までには凹凸の多い道がかなりあるため移動が非常に困難である。

場外から場内へ入るエレベーターは2箇所(メインスタンド両端)しかなく、また場内にはエレベーターがないため、移動についても観戦場所についても、健常者に比べて大幅に限定されてしまっている。

## (14) 等々力緑地入口の道路の渋滞

府中街道から等々力緑地に入出入りする道路は、進入の一方通行路と退出の一方通行路の2本で構成されているが、造りが悪い。等々力緑地からの退出路がすぐに詰まってしまい、その車両が進入路を塞ぐ形(またはその逆の形)になってしまう。南駐車場からの車の出入りが多いことも渋滞に拍車をかけている。



### (15) 場内外監視カメラの老朽化

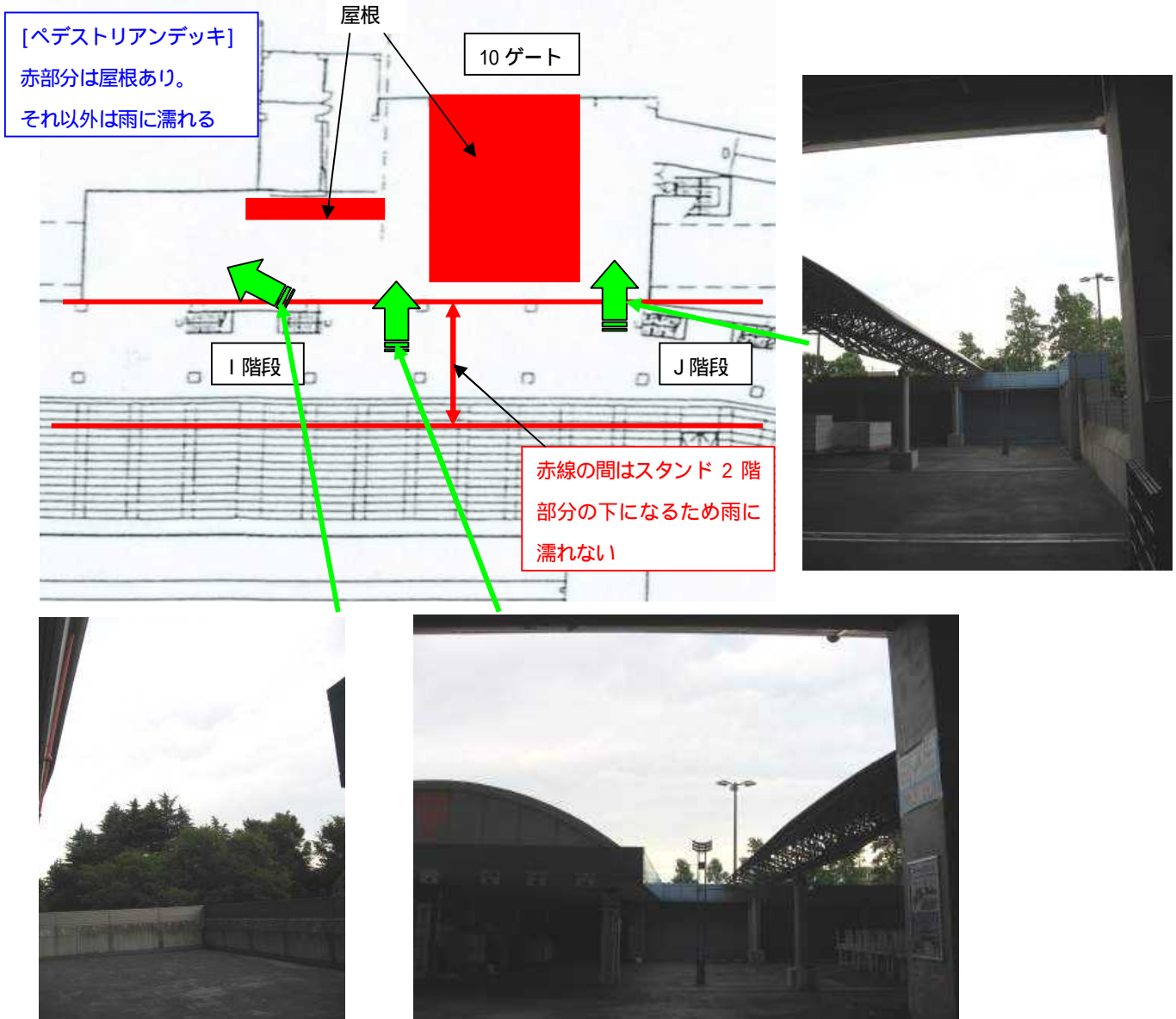
競技場の監視カメラは古く、故障して正常には動かなくなっている。大規模イベント開催の際の警備に関しては、警察庁からも指導が出るなど体制強化が求められている。

### (16) 電力量の不足

大規模イベントを実施する際には、競技場の電力量が不足しがち。川崎フロンターレの試合時には、電力量が足りずに部分的に停電したこともある。

### (17) バックスタンドペデストリアンデッキの屋根

現状ではデッキの一部しか屋根で覆われておらず、雨に濡れてしまうスペースがある。来場者が濡れるため、屋根のない位置は通行導線として使えないだけでなく、売店などのブースも設置が難しい。



(補足) 右、中央の写真部分は屋根が増設されました。



## (18) ゲートに屋根がない

来場者の入場時には通常、チケットのもぎりや手荷物検査などがあるが、屋根がないため濡れてしまう。川崎フロンターレの試合時はテントを設置してしのいでいるが、隙間からしずくが滴ってしまい完全には防ぎきれない。



---

## (19) 映像システムの老朽化

競技場の映像設備は古くなっており、しばしばどこかに不調が生じている。オーロラビジョンも旧型のものであるため、地上デジタル化が進む今、近年中には使い勝手が悪くなると思われる。

---

## (20) ゲート及びコンコースの照明

照明の増設は徐々に進められているが、13ゲートやコンコースなど、まだ暗い箇所が多い。サイドスタンド(ゴール裏)とバックスタンドの屋根に取り付けられた照明は特に照度が低い上に不具合が起こりやすく、点灯しないものも多い。



屋根に取り付けられた照明(右は拡大写真)

---

### (21) テレビ中継ブースの不足

Jリーグ開催時など、テレビ、ラジオともに数局が中継に入る場合があるが、競技場には中継ブースが1つしかない。ブースに入れなかった局は屋外に機などを設置して中継することになるが、雨天時には不可能になる。

---

### (22) 記者席の不足

競技場の記者席数不足のため、Jリーグ開催時などは取材者を受け入れきれない状態になることがある。たとえ素晴らしい競技内容が見られたとしても、報道への露出機会が減ってしまう。また、ガラス張りになっている室内記者席はその他の諸室と同様、競技場全体を見渡すことが難しい席が多く、取材者が座りたがらない。

---

### (23) 緑地内駐車場の駐車可能台数の不足

Jリーグ規模の大会を実施する際、大会運営に必要な関係車両用の駐車場が必要台数分確保できない。一般利用者の駐車場も増強の要望もある。

---

### (24) 強風が吹き抜けるコンコース

コンコースは場外から完全な吹き抜けになっているため風の影響を強く受ける。特に北側は池であるため風通しがよく、コンコースの売店などのブースが風で飛ばされるほどの強風が吹くこともある。営業を中止せざるを得ない場合があり、また、来場者の通行にも支障をきたす。

さらに、陸上競技は特に、風の影響を受けて競技運営に支障をきたすことがある。



### (25) 客席にドリンクホルダーがない

すべての客席で観戦中にドリンクを置く場所がない。ドリンクホルダーを設置できれば解決するが、そのためには客席の前後左右の幅を現状より広げる必要がある。

---

### (26) 危険なスタンド内階段通路

スタンドの客席の間にある通路は階段になっているが、場所によっては、段差を小さくするために補助的な小さな段が間に挟んである。しかし、階段通路を横切るときはこの小さな段が障害になり、来場者が躓いて危険である。さらに、この小さな段が付いている所と付いていない所があるので、来場者にとっては非常に分かりづらく、余

計に躓きやすくなっている。



[バックスタンド1階]小さな段



手前の所には小さな段はないが  
奥の所には段がある



写真最も手前には段があり、  
その奥の通路にはない。  
だがそのさらに奥の通路にはある



バックスタンド以外でも躓きやす  
い造りになっている所が目立つ  
(左写真は2階席)

---

### (27) 見づらいコンコース案内板

混雑時のコンコースは人が溢れて周りが見渡せなくなる。上方に大きな案内板を取り付ける以外、来場者の目にはまともに入らない。

---

### (28) ペDESTリアンデッキ下車路の天井の老朽化

競技場のバックスタンドにあるペDESTリアンデッキ下の車路は天井が崩れ落ちてきている。怪我、ものの破損などの恐れがある。

---

### (29) A E D

A E Dは、利用団体などが医務室に用意しているが、緊急時に競技場及びその周囲までカバーするには及ばない。

---

### (30) 糞害

2階席では全体的に、客席に鳥の糞が落ちている。特に両サイドスタンド(ゴール裏)には鳥が多く居つてお

り、清掃しても競技中にまた糞が落ちてくる。



以上